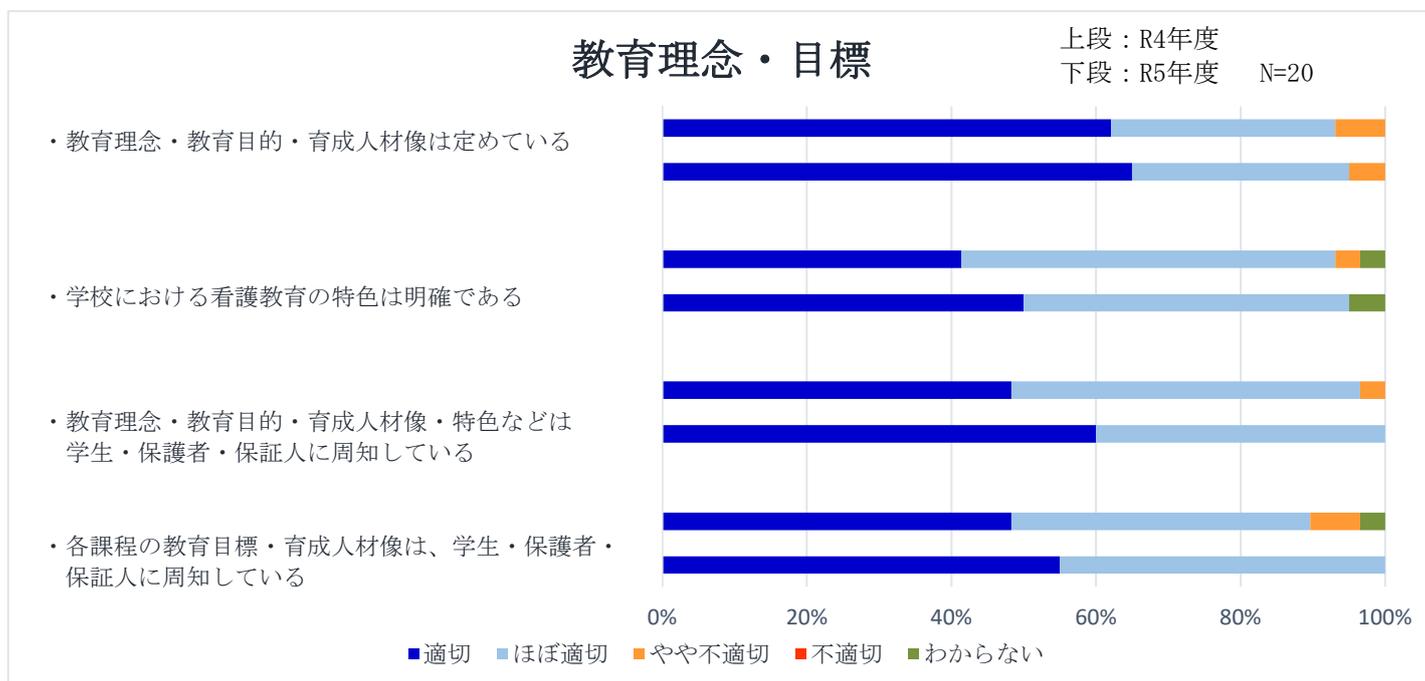


京都府医師会看護専門学校

令和5年度 自己点検・自己評価

I. 教育理念・教育目標・人材育成

N=20



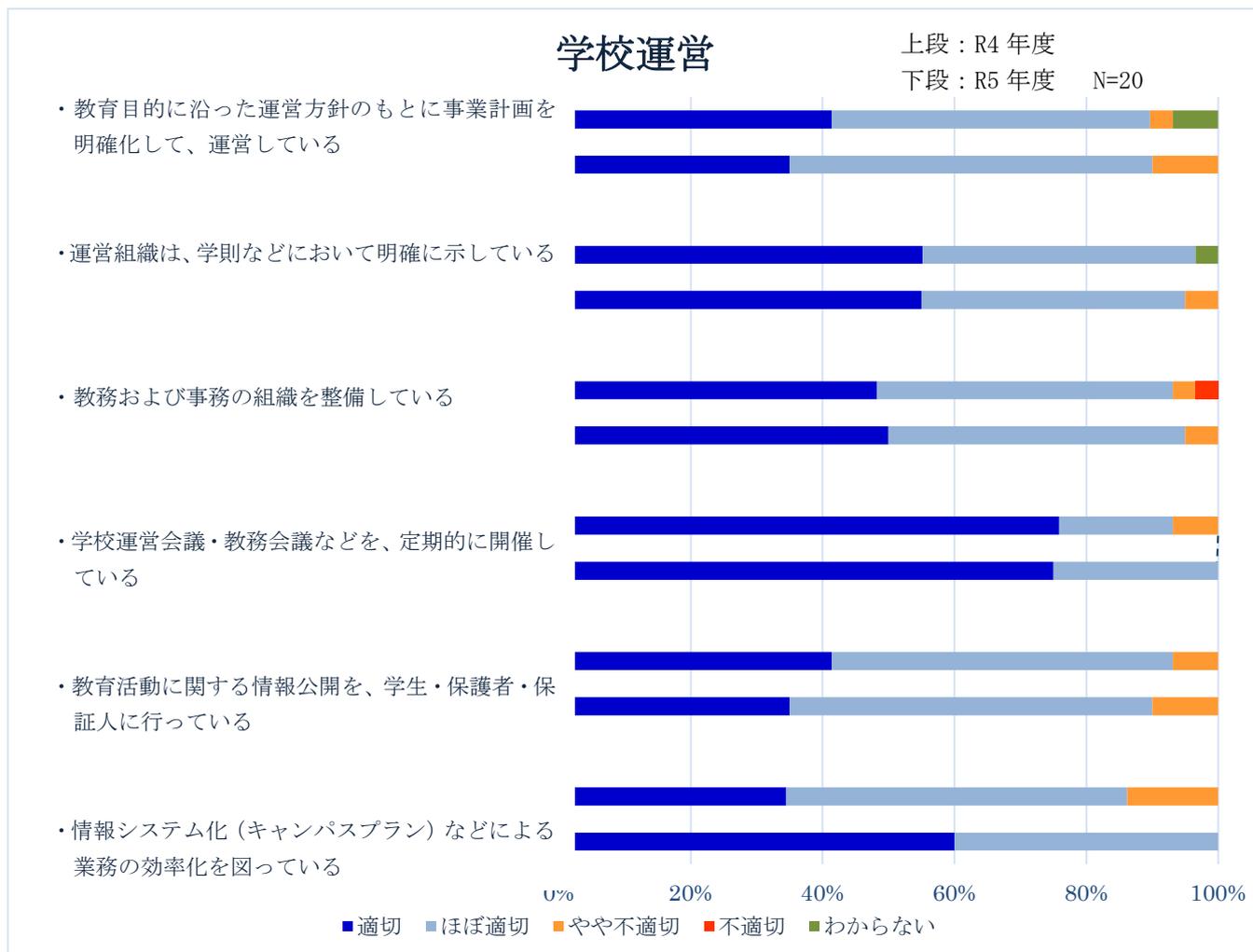
(1) 教育理念・目標

学校評価	外部評価
<p><現状>全体的に肯定評価の割合が高くなり約9割以上が「適切」または「ほぼ適切」と評価した。中でも、「教育理念・特色などを学生や保護者に周知しているか」「各課程の教育目標・育成人材像は、学生・保護者・保証人に周知している」の2項目は、すべて「適切」「ほぼ適切」となった。「学校における看護教育の特色は明確である」は、僅かではあるが「わからない」があった。教育理念・目標は入学時に時間をかけて副校長、教務主任が説明している。保護者への説明は保証人会のみとなっている。</p> <p><総括>教育理念・目標がほぼ肯定評価になったのはカリキュラム改正後に教職員一人ひとりが十分に熟知した上で、学校教育に携わっていたことから教職員の意識改革と日々の教育実践の結果であると評価できる。一方、「わからない」としたものは教員経験年数不足によるものなのか、本校の特色がまだ十分に表出できていないという評価なのかかわからないが、いずれも、理由の記載がないため現状を維持しながら本校の特色をより明確にしていくことが必要である。</p>	<p>全ての項目において、「適切」及び「ほぼ適切」が90%を超え、教育理念・教育目標が適切に定められ、全般的に周知されていることが窺える。</p> <p>全体的に昨年度より適切、ほぼ適切評価が増加し、昨年度に見られた「やや不適切」がほぼ無くなった事は、教職員の方々が明確な教育理念と目標を持って学校運営を行っておられることの表れだと思いますが、看護教育の特色で「わからない」との意見が若干見られることが残念です。</p> <p>職員の9割以上が「肯定評価」の回答であり、看護教育の目的や社会に果たす役割を良く理解している。7月23日19:30~NHK Eテレ「シゴトえらび」で社会人3年目男性が営業職から看護師に興味を持ち転職するために学んだ学校が貴校であった。このことから貴校が社会にとって重要な看護職教育機関であることを認識できた。創立104年の歴史と伝統は社会からの信頼があると言える。</p>

学校評価	外部評価
<p><次年度の課題と方略>今後も新カリキュラムを推進する中で、1年に2回程度は様々な教育課題を抽出し、評価し、改善点の見直しを図っていく。今後も本校の教育理念・目標に基づきながら京都府に貢献できる人材育成に努めていきたい。</p>	<p>約9割以上が「適切」または「ほぼ適切」の評価であり、本項目においては活動の継続が望まれる。教育課題の抽出・評価・改善を図られるとの事、教育理念・目標に向けて取り組まれることを期待。</p>

II 組織運営

(1) 学校運営



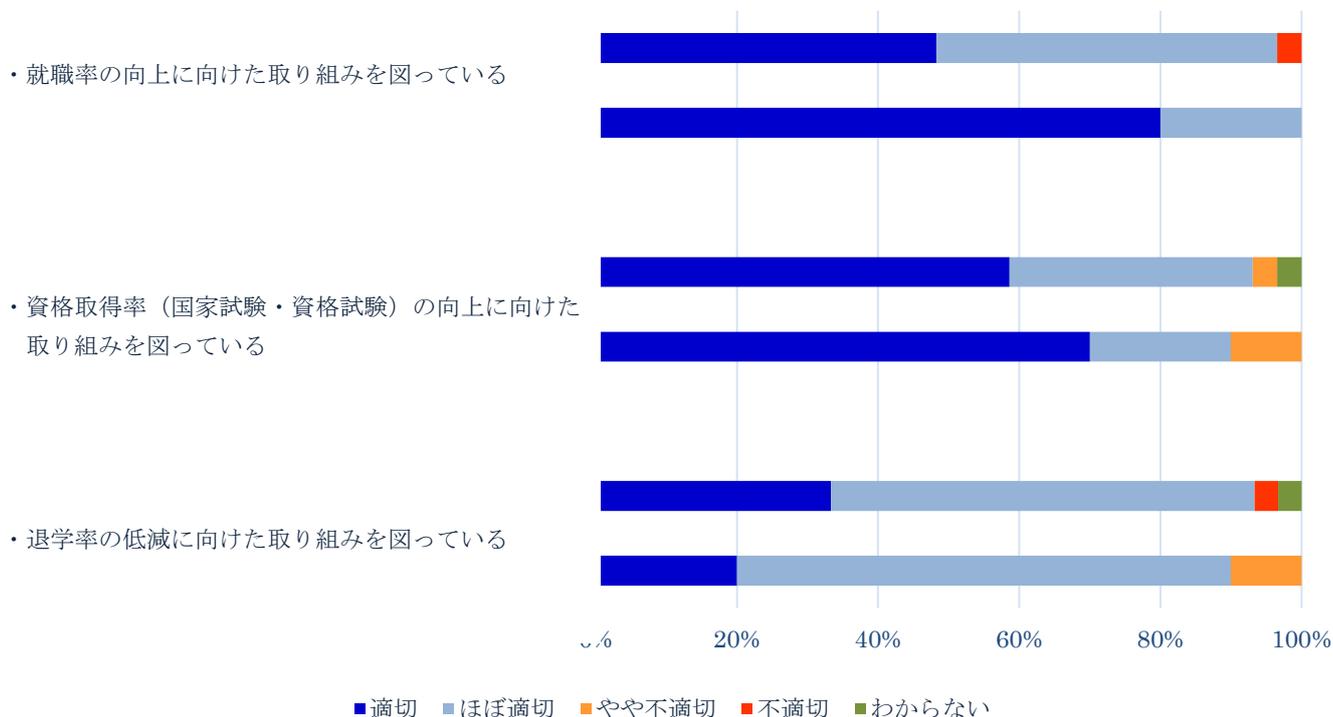
学校評価	外部評価
<p>＜現状＞全体的に肯定評価の割合が高くなり約 9割が「適切」または「ほぼ適切」と評価した。</p> <p>今年度は教育目的に沿った運営方針を各学科ともに明確にし、各学年の行動目標と数値目標を示しそれを達成すべくアプローチ法については副主任を中心に話し合う場をもち学生たちの育ちを全教員で支える体制を整えた。また、教務、事務組織の整備により、今まで行っていた教員の事務作業の多くが機能的にシェアされた。「教育活動に関する情報公開」について保証人会を11月11日（土）に開催し、看護学科では保証人28名、施設保証人9施設、助産学科は1名（遠方のため電話対応）の出席があった。情報のシステム化については、ほぼ肯定意見となった。</p> <p>＜総括＞教員の負担感はかなり軽減した。一方で、事務作業の最終責任は誰が行うのか、指示は誰がするのか等の責任の所在が不明確になっている場面も散見され、早急に責任の所在と指示系統を明確にする必要がある。</p> <p>情報公開について「やや不適切」と評価した意見として、保証人会の出席者の少なさに加え、日々の情報発信について学生を介すことなく保護者にも情報が伝達できる方法に関して希望があった。様々な課題を抱える学生への対応が難しくなり、描いていた結果に到達できなかった項目もあるが、教員間の中で一定の方向性は共有できた。</p> <p>＜次年度の課題と方略＞情報のシステム化については、次年度さらに新しいシステムの導入となるため、さらなる業務の効率化が図れるよう進めていく必要がある。</p>	<p>全ての項目において、「適切」及び「ほぼ適切」の肯定評価が90%を超えている。特に、学校運営会議・教務会議の開催について、また、情報システム化による業務の効率化は、肯定意見が100%であり、改善と工夫の成果と言えるのではないかと。</p> <p>昨年にあった「わからない」が無くなっており、学校運営会議などで運営方針や目的など、定期的に周知されていることの表れだと思います。また、業務の効率化の肯定意見が大幅に増加していることは、働き方改革を積極的に進められている成果だと思います。</p> <p>情報システム化により業務の効率が図られたと回答した職員が昨年25%から60%に増加。教員の負担軽減につながっている。ネットからの情報収集が主流なのでHP内容を充実させることでアクセス数が増加し、学生募集に有用だと考える。社会人経験者には各種奨学金制度紹介も魅力である。</p> <p>9割が「適切」または「ほぼ適切」との評価であり、現活動の成果が出ていると思う。教員の負担感は軽減しているが、事務作業の責任の所在が不明確になっている場面があるとのこと、早急に責任の所在と指示系統を明確にすることで課題改善が見込める。情報のシステム化については、新しいシステムの導入で、さらなる業務の効率化が図れることを期待する。</p>

(2) 学修成果

学修成果

上段：R4年度

下段：R5年度 N=20



学校評価	外部評価
<p><現状>学修成果について、「就職率の向上に向けた取り組みを図っている」は「適切」「ほぼ適切」が100%で、昨年度より約10%高くなった。今年度は就職フェアを開催し、学生は希望する施設の情報に直接得る機会を持てた。また、キャリアセンターでの面談や小論文指導に加え、各業者との連携で就職に向けたマナー、面接講座などを行い、学生のニーズに沿ったサポート体制が強化された。学内での就職フェアに加えてキャリアセンターの活用率も約70%と上昇した。</p> <p>卒業生の就職先について、助産学科21名は以下の通りであった。大学病院3名、公的病院（都道府県・市町村）3名、公的病院（国立・済生会・日赤等）6名、一般病院7名、クリニック2名。</p> <p>看護学科72名は、大学病院3名、公的病院（都道府県・市町村）3名、公的病院（国立・済生会・日赤等）17名、一般病院37名、クリニック1名、進学4名、その他7名であった。「資格取得率（国家試験・資格試験）の向上に向けた取り組みを図っている」については、「適切」が59%から70%に上昇しているものの、「やや不適切」「不適切」が6.8%から10%に上昇した。国家試験・資格試験対策については、全ての課程で模擬試験や対策講座などを計画的に取り入れており、模擬試験の種類や時期を検討し、その結果の分析を行うことでより一層の学生の力量や学習進度に合わせた効果的な対策を行った。今年度の国家試験の</p>	<p>就職フェア開催が、学生の情報収集に大きな役割を果たしていることが窺える。国家試験結果については、助産学科7年連続での全員合格は、指導体制の確立を感じる。看護学科での指導体制に適用できないものか考えることも必要か。</p> <p>就職率向上に向けた取組は高評価であるものの、国家試験合格率向上と退学率低減の取組において、「やや不適切」が増えており、教育訓練支援給付金等への影響も考えられることから、より一層の取組をお願いしたいと思います。</p> <p>就職率向上に向けた取り組み80%の急増は、従来から学生と教員の距離が近く丁寧な指導イメージがあったが、キャリアセンターの活動の成果だと考える。看護師国試合格は専門学校の期待される使命であることから、学生の傾向をつかみ早期からの対策を積み上げる必要がある。不合格者も孤独にさせず翌年には合格を目指す支援の継続も期待する。</p> <p>学修成果について、活発な活動が評価に現れており取り組みの継続が望まれる。また、多忙な中でも学生の希望を叶える活動が行われており、学生のニーズに沿ったサポート体</p>

結果は以下の通りであった。助産学科は、21名が受験し21名が合格した。結果、7年連続100%合格となった。看護学科は72名が受験し67名が合格し93.1%の合格率で全国平均(93.2%)に僅かに届かなかった。「退学率の低減に向けた取り組み」は、「やや不適切」「不適切」が6.6%から10%と高くなった。今年度から、全面的に対面授業に移行し学生の状況は把握しやすくなった反面、登校することへの負担感や人間関係などにストレスを感じる学生が増えている。今年度卒業生の退学者数は以下の通りであった。

看護学科は10名で退学率12%と高い割合であった。新3年生の3月末現在の退学者3名で減少傾向にはある。助産学科の退学者は0名であった。退学の理由には進路変更が最も多く、次いで家庭の事情や経済的理由、学業不振などであった。

<総括>本校の就職支援が定着しつつある。医療機関の就職試験は新年度早々から開始されるため、進級前に奨学金貸与も含めた就職状況を把握し担任による面談などを早期から開始し状況の把握ができていたことは学生の希望する就職先に繋げることができた。また、キャリアセンターを通して就職内定状況を学校管理者、各学年担当者等が把握することができた。引き続き、就職活動を支援するために各施設の募集状況の把握や京都府看護協会の就職に関する情報収集及び学生への情報提供、タイムリーな面談などが必要である。

国家試験は下位層への手厚い指導は効果が得られた。一方で、中位層への指導については課題が残った。また、模擬試験や集中講義の時期、特に学内教員が行う国家試験対策の講義については時期・内容ともに検討する必要がある。

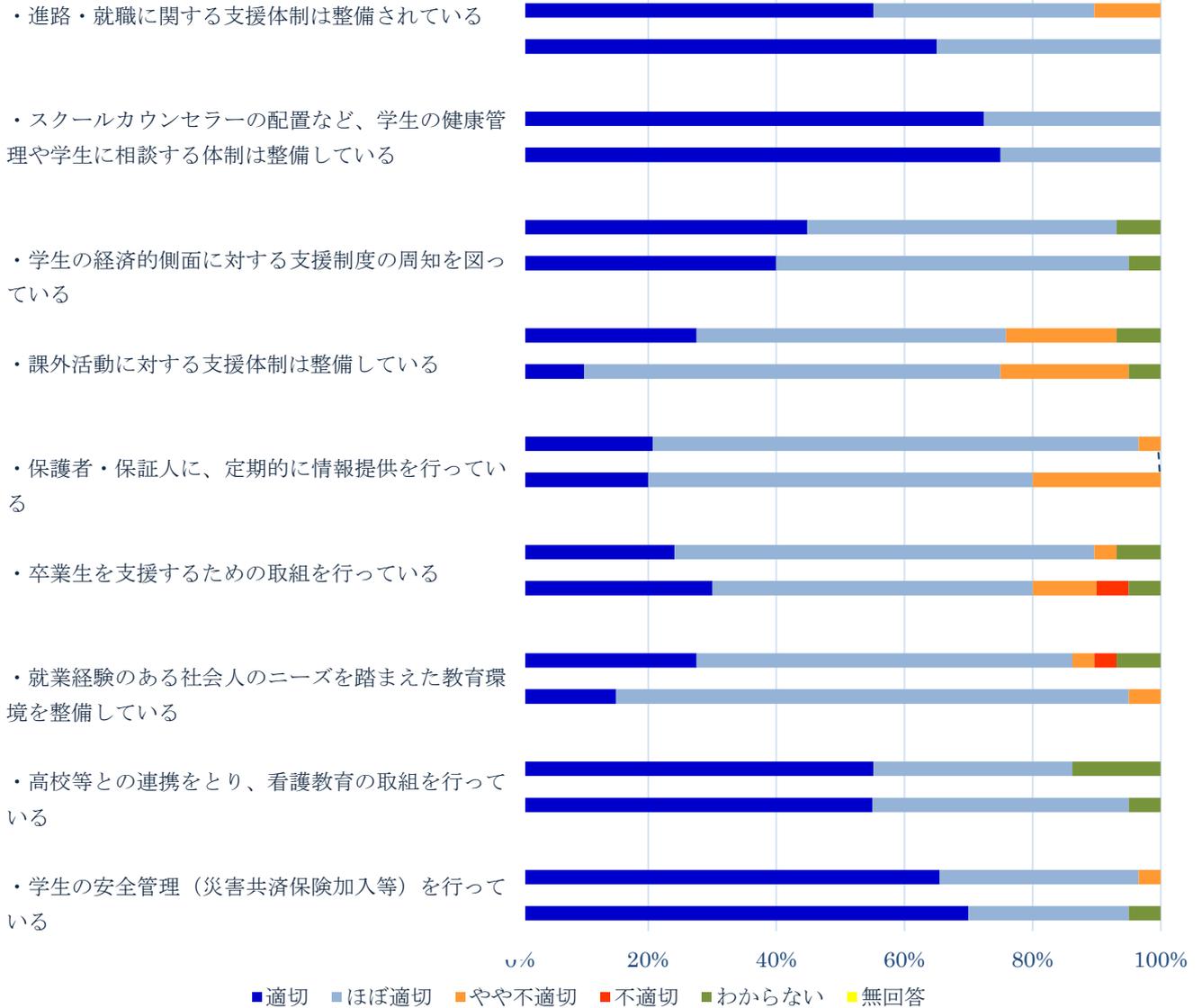
<次年度の課題と方略>国家試験対策においては学習面以外に精神的なサポートも重要である。また、入学時から効率的に系統立てた試験対策が必要であることから、学年担任だけが負担を抱えることがないように、キャリアセンター主導の下、全教員が学生サポートができる支援体制を構築する。また、成績中位層にもきめ細やかな支援を行っていくことが次年度の重要な課題である。加えて、不合格者への支援も行っていく。退学率低減に向けては、学生の学習状況、心身の状況を早期に把握し、担任のみならずスクールカウンセラーと連携し学生の不安に寄り添うことが必要である。次年度も学生アンケート等を利用し不安の強い学生や気になる学生はスクールカウンセラーと連携を取る体制を強化していくと同時に学生の些細なサインを見落とさない信頼関係の構築に努める。また、看護師への夢が継続し続けられる学級づくり、学習支援を行っていく。

制につながっていると感じた。国家試験・資格試験対策について、模擬試験や対策講座などを計画的に取り入れて効果的な対策ができていていると思う。しかし、合格率で全国平均に届かなかったことについては今一度、対策のポイントを見直す事の必要性も感じた。国家試験については、受験者100%の合格率を目指す必要がある。下位層だけでなく全校学生のニーズに沿った指導を強化することで国家試験合格率100%を目指してほしい。

学生支援

上段：R4年度

下段：R5年度 N=20



(3) 学生支援

学校評価	外部評価
<p><現状>9 項目中、6 項目で肯定評価が95%となった。特に「進路・就職に関する支援体制は整備されている」「スクールカウンセラーの配置など、学生の健康管理や学生に相談する体制は整備している」は肯定評価が100%となった。一方で、「課外活動への支援」「保護者・保証人への定期的な情報提供」「卒業生を支援するための取り組み」については、約20%が「やや不適切」「不適切」としていた。</p> <p>課外活動については、昼休み、放課後に体育館を解放することで、バレーボール、バドミントンなどスポーツを楽しめる環境を提供した。保証人会は11月11日（土）に開催し、保護者28名と9施設からの施設保証人の出席があった。卒業生への支援では、図書室の解放、カムバックスクール開催などである。</p>	<p>学生への支援については、肯定評価が概ね90%を超えている。保護者・保証人への情報提供、また、卒業生への支援について多少の課題を感じる。具体的対応を講じることを期待する。</p> <p>進路・就職の支援体制や学生の健康管理、学生相談に関する体制の高評価は、支援体制の充実に向けた取組の成果であり、就業経験のある社会人のニーズを踏まえた教育環境の評価においても、若干「やや不適切」があるものの、肯定評価が増加しており、学習意識の高い社会人経験のある学生に対する支援の充実がみられます。</p>

＜総括＞就職フェアの開催やキャリアセンターの利用が軌道に乗り始めたことで就職支援については一定の効果が得られた。また、スクールカウンセリングについても同様である。コロナ禍での生活から徐々に通常の学校生活に戻り始めたことで精神的サポートを必要とする学生が増えたが、教職員が適切にカウンセラーにつなげるなどの連携が取れていたものと考ええる。

「保護者・保証人への定期的な情報提供」については、希望者のみという形のため保証人全体への学生情報提供に至っていない。カムバックスクールも参加者が限定されており、参加者が参加しやすい方法を時期、内容を含めて検討する必要がある

＜次年度の課題と方略＞保護者・保証人への定期的な情報提供については、保証人会の開催のみではなく、学生状況を適宜共有できる場、システムの検討が課題である。卒業生支援では、カムバックスクール以外の支援も新たに検討する必要がある。その一つとしてセカンドキャリア支援として、卒業生のキャリアセンター利用も検討する必要がある。

高校の職業イベントや進路相談、看護学生になってからの学業と生活の両立・学校環境・メンタル相談・感染対策・奨学金制度など学生が不安なく専念できる体制が整っているため 95%肯定評価を得られていると考える。

肯定評価が 95%であり、取り組みが継続できることで問題はないと思う。課題とされる保護者・保証人への定期的な情報提供については、学生が置かれる状況に合わせた情報共有方法を考慮する必要があると感じた。

(4) 教育環境

ア 環境設備

環境整備

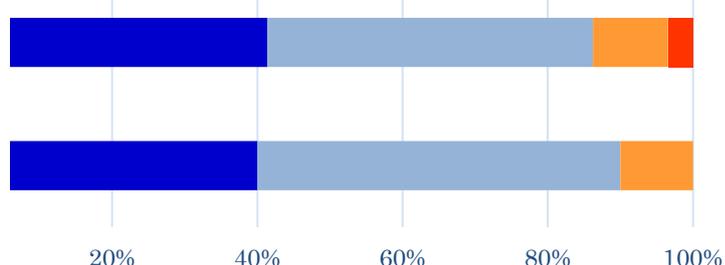
上段：R4年度

下段：R5年度 N=20

・施設・設備は、教育上必要な対応ができるように整備している



・学校外における研修や学習に必要な教育体制を整備している



■適切 ■ほぼ適切 ■やや不適切 ■不適切 ■わからない

学校評価	外部評価
<p><現状>環境整備では、85%以上が肯定評価であったが、「施設・設備は教育上必要な対応ができるように整えている」については、昨年度より「やや不適切」の割合が高くなった。コロナ禍の2年間で校内全館のWi-Fi整備、多様なオンライン形式授業の実施を進め、さらに、昨年導入したWebカメラの利用、スクリーンやスピーカー、マイク等の整備など、教育環境を充実することができた。さらに、今年度は関連機器の活用を継続し、並行して電子教科書を導入することでペーパーレス化を進めることもできた。一方で、コロナ禍で分割していた教室から1教室にしたことでの窮屈さを訴える学生もいた。</p> <p>「学校外における研修や学習に必要な教育体制を整備」では、「やや不適切」が10%「不適切」は0%となった。課外授業の多くは、感染対策を配慮したうえで概ね計画通り進められ、臨地実習についても、新型コロナウイルス感染症が5類へ移行したことを受けて事前検査の実施数は激減し、ほぼ現地における臨地実習が展開された。また、京都府医師会の京都医療トレーニングセンターの利用も行った。</p>	<p>近年では、Wi-Fi環境やICT機材の整備が「教育環境の整備」に繋がっている風潮にあるが、コロナ禍を機に年々その充実感が増していることは確かである。学習成果との関係にも注目したい。</p> <p>電子教科書の導入によるペーパーレス化を進められるなど、環境整備へ積極的に取り組まれており、コロナ5類以降の臨地実習の増加も肯定評価に繋がっていると思います。</p> <p>コロナ感染対策を機会に貴校のIT環境が整い、85%以上の肯定評価に繋がっている。会議でのペーパーレス化など資源削減の効果につながっている。</p> <p>環境整備では、Wi-Fi整備、多様なオンライン形式授業の実施・Webカメラの利用、スクリーンやスピーカー、マイク等の整備など、教育環境の充実など必要な取り組みはできている。課題とされる学習環境については、学生の意見を聞きな</p>

<総括>学校の環境整備はコロナ前に比べICT環境が充実してきた。それを使う、教職員、学生も新しい環境に適応してきたと言える。一方で、コロナ禍、感染予防対策で行っていた学生間の距離をあけるといった環境(1机に1人使用)に慣れた学生にとって、1机に2人は窮屈に感じているのも納得できる。対策を講じる必要がある。学外における研修、学習体制についてはこれからも情報提供を行っていく。

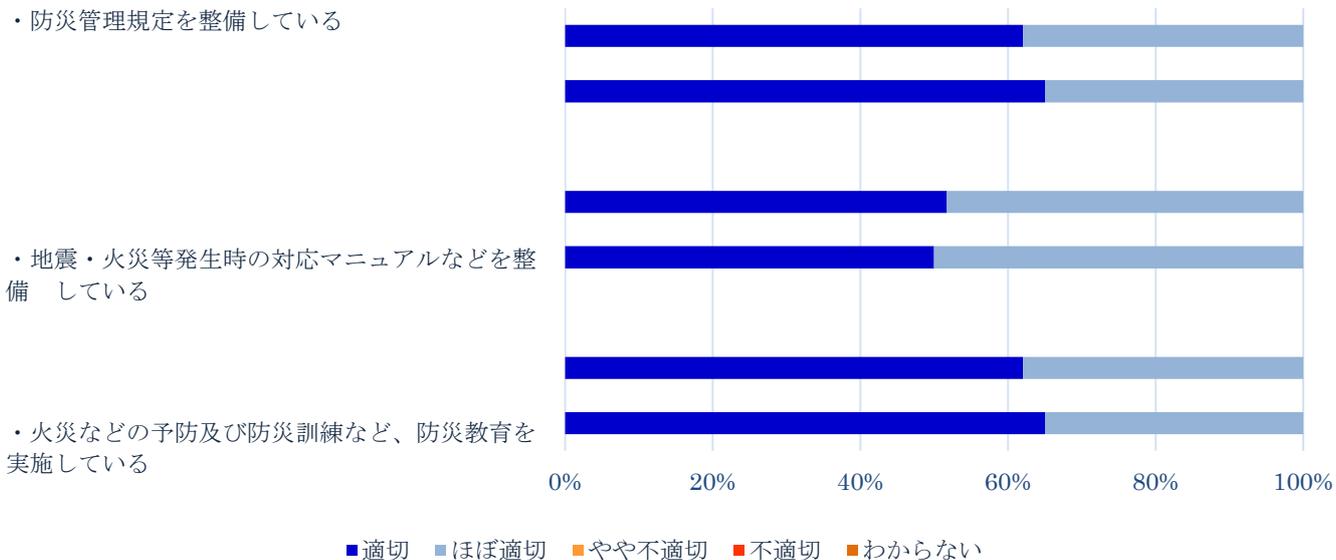
<次年度の課題と方略>直近の課題として、学習環境としての教室の使い方については検討を要す。また、教室内の寒さ、暑さ対策については個人差が大きいため引き続き学生の意見を聞きながらもSDGsの観点からは冷暖房などエアコンの過度な使用を控えることが地球規模での目標であることを教職員、学生とともに共通認識を図りながら対応していく必要がある。その他の学習環境については学生の声や教職員の意見を吸い上げ、一つひとつ検討していく。

がら教職員の意見も踏まえて、一つでも実現できることが解決に繋がると思う。

イ 防災管理

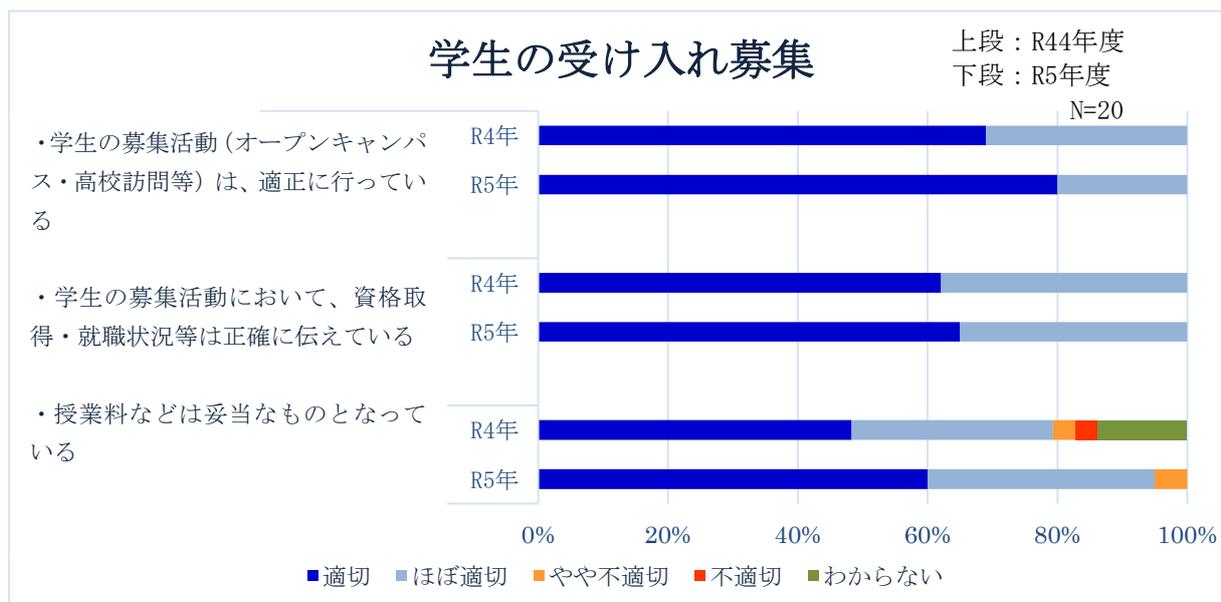
防災管理

上段：R4年度
下段：R5年度 N=20



学校評価	外部評価
<p><現状>昨年度同様、防災管理の3項目については「適切」「ほぼ適切」の肯定評価が100%であった。今年度は、教職員対象の防災訓練や学生対象の訓練実施にあたり、事前に防災規程や防災マニュアルの周知を図り、学生の意識付けを行った。また当日は、出火場所の事前通知をなくし訓練時の状況に適した判断・行動することを課した。本校が指定されている妊産婦等福祉避難所については、京都市主催の机上訓練に教員1名、職員1名が参加し、地域・行政の中での役割や連携・調整の詳細を把握し確認することができた。</p> <p>1月1日の能登半島地震の際に緊急の安否確認を実施したが、長期休暇中であったこともあり学生の安否確認がとれたのは翌日となった。結果、助産学科では4.5%看護学科9.0%の学生と連絡がとれなかった。全員の安否確認ができたのは助産学科は翌々日となり、看護学科では3日以降でも2.8%の学生の安否確認がとれなかった。その後2月14日の京都府南部を震源とした最大震度4の地震の際には授業および外部研修生受け入れ中であり、突然の大きな揺れに初動マニュアルに沿った動きがとれなかった。この反省を踏まえ3月のシェイクアウト訓練を活用し教職員の動きを確認し、訓練を実施した。</p> <p><総括>評価の通り、防災規程や防災マニュアルは整備されており、また、防災訓練も実施している。しかし、安否確認に時間を要したことや、突然の強い揺れを感じた時にマニュアル通り動くことができなかったことは、災害はいつ起こるかわかならないといった心構えの欠如が浮き彫りになった。いざという時に対応できるよう、定期的な周知徹底や臨場感ある訓練を実施していくことの必要性を感じた。</p> <p><次年度の課題と方略>京都市マニュアル改正を受けて、本校の妊産婦等福祉避難所マニュアルの修正・改善を実施していく中でよりリアルな訓練ができるよう計画していく予定である。初動マニュアルは手元に置くなど、各教職員、自分の役割を把握しておくよう徹底する。</p>	<p>前年に引き続いて、全項目で肯定評価が100%であり、高い危機管理意識が窺える。昨今では、自然災害の頻度がこれまでよりも増加している。学生への防災教育は必須であると感じる。</p> <p>防災管理においてはすべて肯定評価であり、防災意識の高さが伺えますが、災害時の安否確認や非常時の行動など、今後起こりうる可能性のある南海トラフ地震などに向けた対策が必要だと思えます。</p> <p>100%肯定評価は、大規模災害や気象異常が続き、災害看護の関心が高まっていることから防災管理をさらに認識したと考える。災害大国で生活していることから防災訓練を継続しなければならない。</p> <p>防災管理の3項目については肯定評価が100%であり、教職員対象の防災訓練や学生対象の訓練実施に向けた取り組みや意識づけに成果が見られる。学生の安否確認については、早急な対策が望まれる。</p>

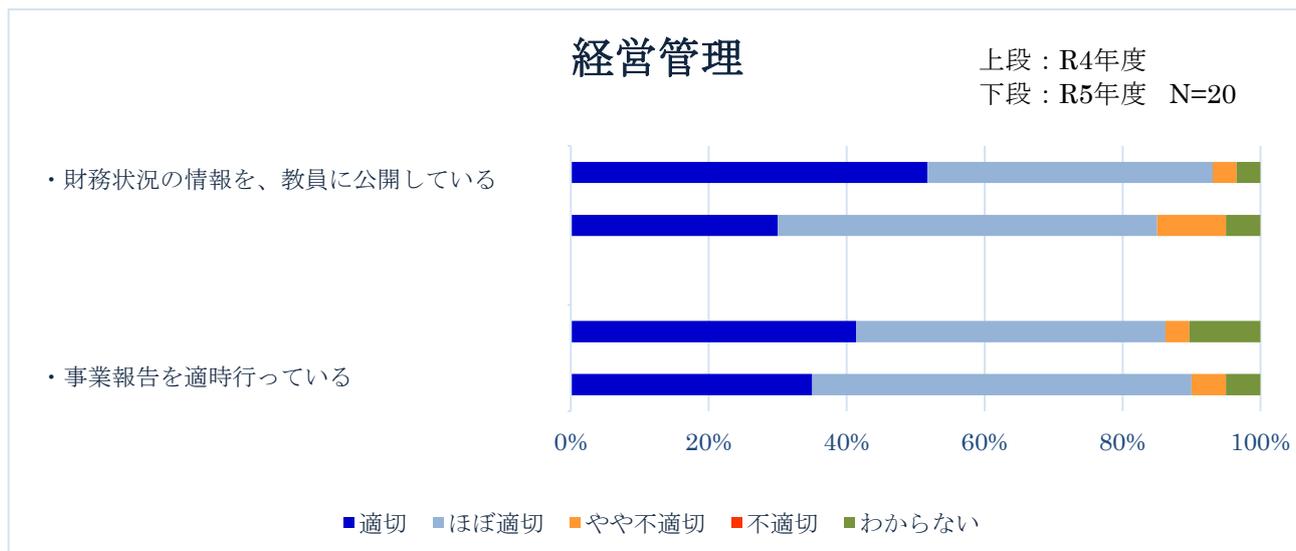
(5) 学生受け入れ募集



学校評価	外部評価
<p><現状>学生受け入れ募集の3項目はほぼ肯定意見となった。オープンキャンパスは、来校型で5回、うち1回は日曜日に開催するなど参加者の参加しやすい日程を検討し設定した。結果、参加状況は昨年度より増加し341名（約13%増）、保護者も増加し118名（約44%増）であった。プログラム内容は各回、体験イベント、座談会、個別質問コーナーをとり入れた。各学科、就職先についても具体的に説明した。「授業料は妥当なものとなっている」に関しては、昨年度より肯定意見の割合が高くなった。</p> <p><総括>学生受け入れ募集については、一定の評価が得られた。在校生や教職員との直接的な関りやその様子から学校の雰囲気や学生・教員との関係性が伺えた等、参加者の高い満足度につながり、受験候補校として評価が得られたと考える。在校生による案内や座談会も好評であった。保護者の参加が増加していることから、受験者の参加者だけでなく保護者にも選ばれる学校であるための配慮、しかけが必要であると考え。参加者の肯定的な意見は教職員の充実感につながっていた。</p> <p>全教職員が授業料に見合った教育を担保する必要性を認識している結果ではないかと考えられる。意見として、「授業料等は妥当なものとなっているがもう少し値上げして充電や暖房、照明等を自由に使用したい」と、学習環境を整え、より適切な教育のための整備を期待する声も上がった。また、社会人入学生にとって学校選択の重要要素である教育訓練給付金については、看護学科が対象外となったため、受験者数に大きく影響が出たと思われる。職業訓練給付金が対象認定されるよう、国家試験対策に力を入れ、職業実践専門課程やキャリア形成促進プログラム認可を受けたカリキュラムであることを今後も積極的にア</p>	<p>オープンキャンパスでの来校者が、生徒・保護者共に増加していることに発信力の向上を感じる。実際に受験し入学した学生が、何を基準として本学を選択したか、外部から見ての本学の魅力は何であったかを調査することも必要と感じる。</p> <p>すべての項目で肯定評価が増えており、オープンキャンパスの休日開催や座談会など、在学生と直接話せる機会を充実された成果が表れたものと思います。</p> <p>定員を満たす学生数確保は、専門学校を存続するためにも達成したい。そのために出来る募集活動は様々実施しており参加者数も増加している。大学との併願している学生も多いと思うので、第一志望としてもらいたい。社会人から転職・学生になる人向けに先輩エピソードや各種奨学金制度の利用等ホームページで魅力をさらにアピールをしていく必要がある。</p> <p>学生受け入れ募集について、オープンキャンパスに参加者が増えても受験者数に反映されにくい、学生優位な状況。本校の特徴（ウリ）が明確に打ち出される必要があると感じた。社会人入学生にとって学校選択の重要要素である職業訓練給付金が対象認定されるよう、国家試験対策が必須だと思う。</p>

<p>アプローチし、学生獲得に努めたい。</p> <p><次年度の課題と方略>広報としては、引き続き高校訪問、出前授業、オープンキャンパス、SNSによる発信、ホームページの充実を図る。また、学生目線による学校生活の発信は同世代の者に本校をより知ってもらい、関心を高めてもらうために有効である。次年度は全教職員、学生と協同で作上げる広報活動を目指していきたい。様々な広報活動を通して、受験者数の獲得に繋がるよう努めていきたい。</p>	
--	--

(6) 経営管理

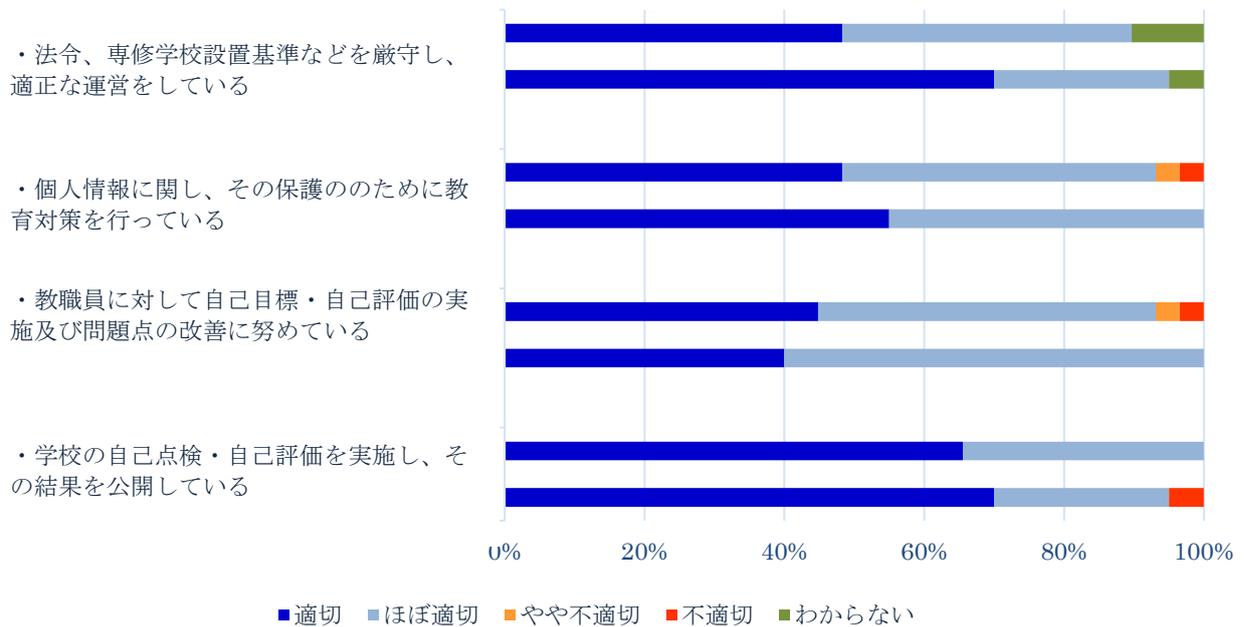


ア 財務

学校評価	外部評価
<p><現状>経営管理については、約 90%が肯定意見ではあるが、「財務状況の情報公開」「事業報告を適時行っている」について、「やや不適切」「わからない」の回答があった。財務状況については、合同会議で年に1~2回、事業報告は報告書として回覧されている。</p> <p><総括>「財務状況の情報を、教員に公開している」については、受験者数の減少、定員割れの状況は学校経営上厳しいことであることを会議等で報告されているが、より詳細な収支報告書や改善策についての共有を期待しているとも考えられる。</p> <p>「事業報告を適時行っている」については報告書の閲覧だけに終わらず、次年度に向けて、戦略を練る機会とする必要がある。</p> <p><次年度の課題と方略>受験者数、入学者数が大幅に減少している中、実習施設が多岐にわたることで教員数を増やさざるを得ない状況がある。今後も更なる経費削減を行いながら、受験者数の増加、入学者の定員確保を図ることで収支バランスをとっていけるよう運営することが大きな課題となっている。同時に教職員に対しては、詳細な収支報告書を提示することで、学校経営に対して更に意識を向けてもらうことが課題である。</p>	<p>詳細な収支報告書などの共有を図るか否か、そのこと自体の情報共有が必要ではないか。</p> <p>受験者数の減少や定員割れなどかなり深刻な状況であり、来年度に向けた改善策の策定を進めていただくとともに、収支報告等の周知により、コスト意識を高めていただく必要があると思います。</p> <p>財務状況や事業報告を公表していることが 90%肯定評価に現れている。</p> <p>成績の低い人を無理にとれば数は満たせるが、質の低下を招き退学者やひいては国試合格率低下に繋がり兼ねない。助産学科の高い倍率は貴校の強みであるので、「看護科から助産学科に進学できる」をもっとアピールしても良いのではないかと考える。</p> <p>経営管理については、約 90%が肯定意見ではあるが、とにかく受験者数、入学者数が大幅に減少している中、実習対応教員数を増やさざるを得ない状況など職員への共通認識が必要である。まずは受験者数の増加、入学者の定員確保を図ることで収支バランスをとっていける運営をすることが重要であると思う。</p>

法令等の遵守

上段：R4年度
下段：R5年度 N=20

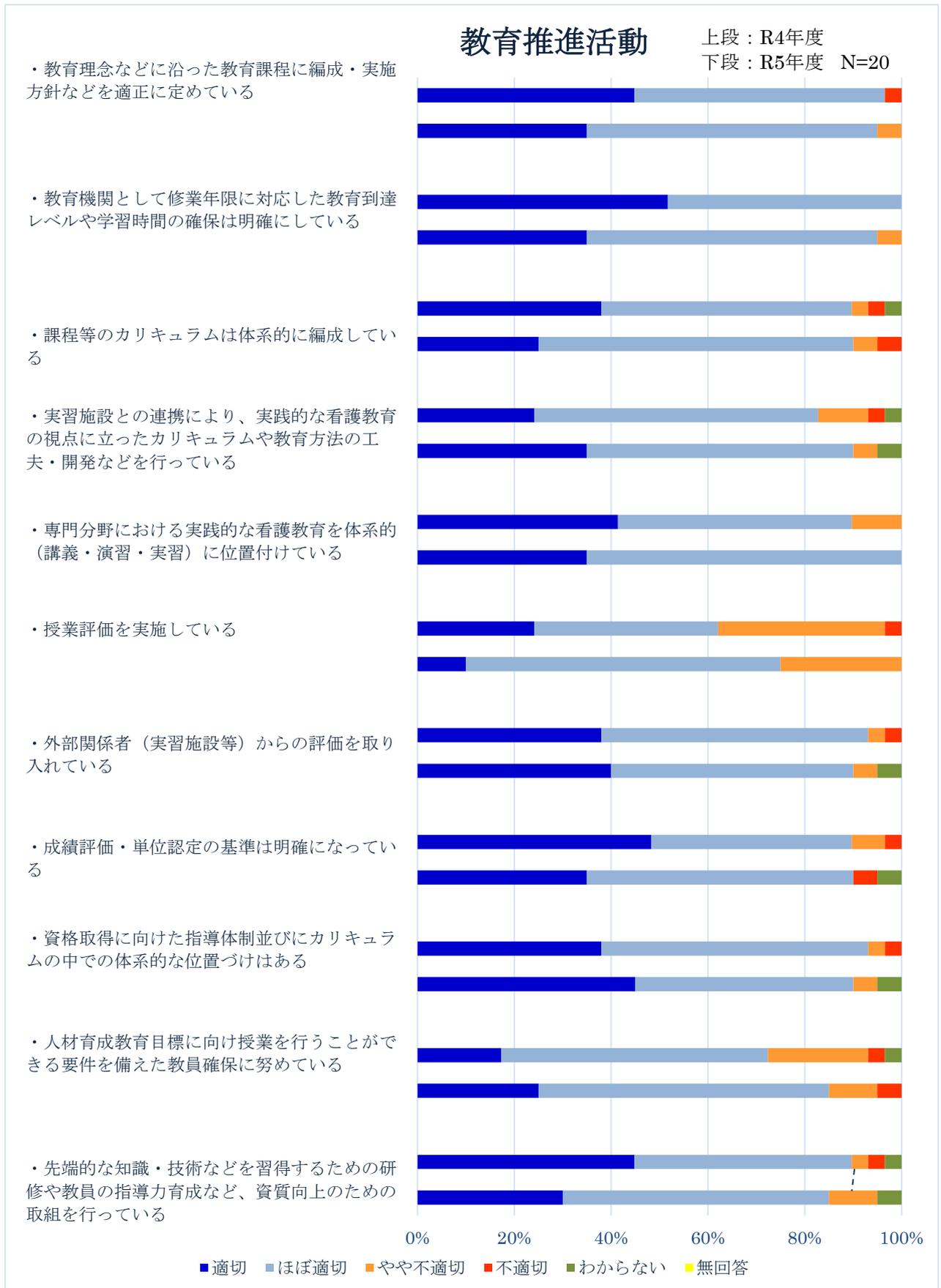


イ 法令遵守

学校評価	外部評価
<p><現状>法令等の遵守についてはほぼ肯定意見であった。「法令、専修学校設置基準などを厳守し、適正な運営」について、「わからない」が一部いた。「学校の自己点検・自己評価を実施し、その結果を公開している」については「不適切」が一部あった。法令に遵守して運営するのは当然である。個人情報の保護のみならず、著作権についても慎重に取り扱っている。自己点検自己評価については教職員のみならず、学校関係者委員会を通して、結果を公開し学校評価を受けている。この結果と学校評価、外部評価はホームページで公開している。</p> <p><総括>法令等の遵守についての項目はほぼ適切と評価できる。教職員が年度初めには目標を明確にし、業務にたずさわっていた結果であると言える。特に、副主任を中心に運営や教育の見直しを図る機会をもったことで、全教員が法令遵守の運営を心がけていった結果と考える。また、ハラスメントについて弁護士の先生より講義を受け教職員一同で研修会に参加したことも、教職員の意識の向上につながった。一部の「わからない」「不適切」評価については、コメントがないため理由は不明である。</p> <p><次年度の課題と方略>今後も法令を遵守して適切な運営を図る。また、引き続き、配信などのツールを活用して自己点検自己評価の結果は回覧し周知する。法令遵守については今後も研修会の機会を持つことで教職員の意識向上に努めていく。</p>	<p>教育機関として、法令等の遵守は信頼構築には欠かせないものである。「不適切」「わからない」についての対応が必要と感じる。</p> <p>個人情報保護や問題点の改善など、すべて肯定評価となったことは教職員の方々の努力の賜物であり、今後も法令遵守を積極的に進めていただきますようお願いいたします。</p> <p>法令に基づいて運営されていることが職員に周知されているので、職員が安心し高い肯定評価に繋がっていると考えられる。教員が使っている目標管理は各自の役割や到達すべき目標の見える化に繋がり成果がでていていると考える。</p> <p>ハラスメントについての講義等、教職員の意識の向上につながる活動ができ、法令遵守について今後も研修会の機会を持ち教職員の意識向上に努められることで良いと思う。</p>

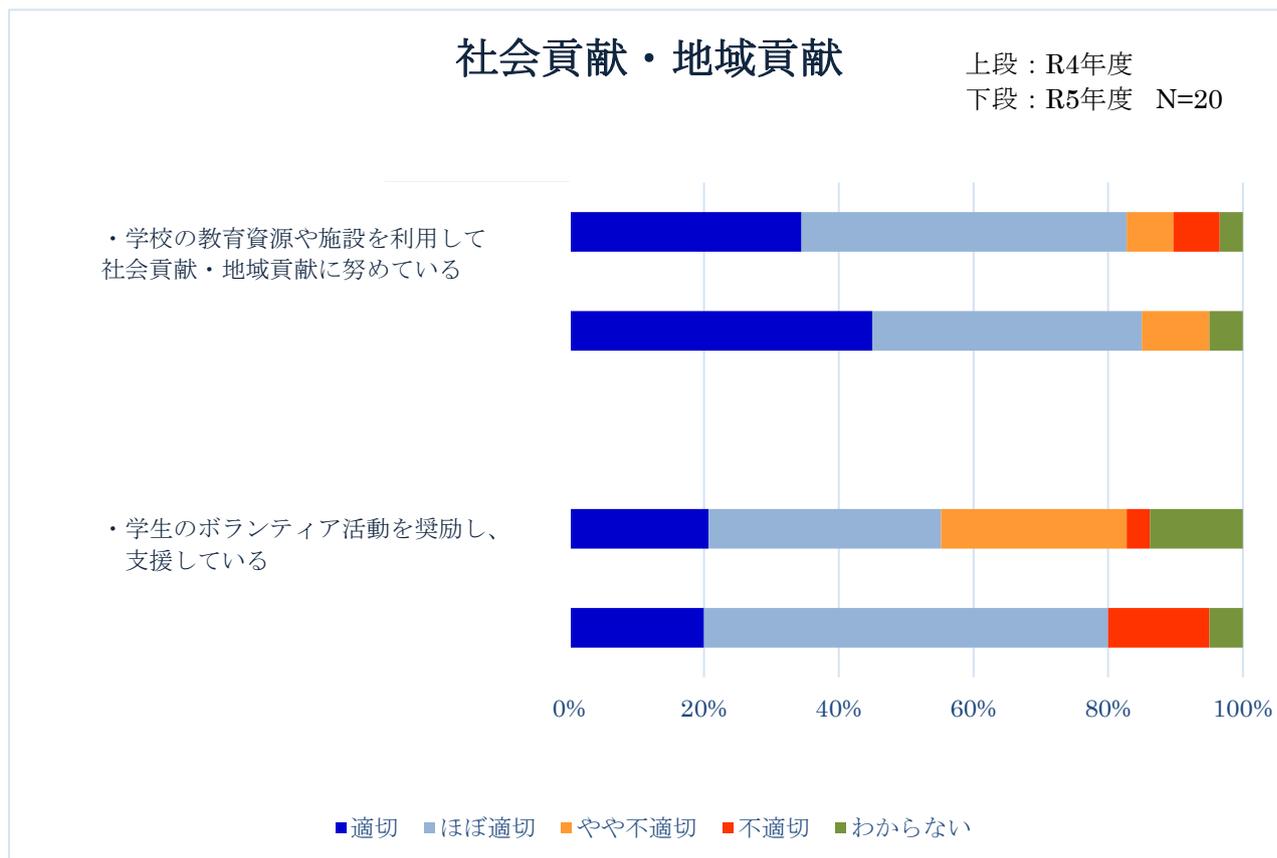
III. 教育活動

(1) 教育推進活動



学校評価	外部評価
<p>＜現状＞すべての項目において肯定評価の割合が高くなった。新カリキュラムの教育課程に基づいた各学年の目標を定め、教員で学生像や学年の課題を共通認識し教育方針を定め教育活動に当たった。課題が残った項目として「先端的な知識・技術などを習得するための研修や教員の指導力育成など、資質向上のための取組を行っている」については、「やや不適切」「わからない」の割合がやや高くなった。教員の資質向上のための取組として、学内、学外での研修は積極的に参加を勧めている（P.22 V. 研究・研修参照）。</p> <p>「授業評価の実施」については25%が「やや不適切」とした。授業全般に関する学生からの評価は、助産学科は100%肯定意見、看護学科は、1年生75%、2年生70%、3年生90%で肯定評価であった。一方で否定評価の中には授業の進め方（教科書を読んでいるだけ、順序性）等について改善を求める声があった。</p> <p>＜総括＞今年度は、外部での研修を終えた副主任3名を中心に他校の取組みを参考にしながら教育活動を見直し、学年目標に基づいた教育計画を立案し実施した。夏季と冬季にはカリキュラム検討会を実施、授業、実習についてのカリキュラムの見直しをすることで、教員の大部分が新カリキュラムを理解し推進していく基盤ができたと考える。</p> <p>「授業評価」については、教員全員が実施できている状況ではないため、授業の質の向上のため実施していく必要がある。教員の自己研鑽する環境や支援する体制は整っているが、多忙な業務の中で研修の時間を確保することが難しいと感じている教員がいることも事実である。引き続き、業務のスリム化を図り、教育活動の質の向上のための時間も捻出していく必要がある。</p> <p>＜次年度の課題と方略＞今年度は新カリキュラムの完成年度となる。3年間の見直しを図る年となる。学生の長期休暇等を利用し、全教員で検討の機会を持ち評価、修正を行う必要がある。同時に教員の資質向上の支援体制は整っているため、計画的に研修等に参加できるよう個人の努力を促し、よりよい教育活動を推進していく基盤を強化する。</p>	<p>教育理念・目標を明確にして、具体的に教育活動を進めることが教育機関にとっては重要である。一人一人の学生に寄り添った教育活動で、あらゆる面で確実に成長し、「選ばれる学校」であり続けることを期待する。</p> <p>全体的に肯定評価が増加し、専門分野における実践的な看護教育は、すべて肯定評価となるなど、大きな改善が見られるものの、授業評価における「やや不適切」が占める割合が多く、また、昨年には見られなかった項目に「わからない」との評価があり、改善に向けた取組をお願いします。</p> <p>新カリキュラムにも慣れてこられ、すべての項目において肯定評価である。「不適切」の回答が昨年よりは減少しているが、教育の質に関する項目では真面目さゆえの厳しさとして評価しているのではないだろうか。学生アンケート結果では教育全般について約8割が授業の熱意が高いと回答している。</p> <p>「授業評価」については、評価方法が難しい事ではあるが、教員の自己研鑽に繋がる側面もあるため、そのための環境や支援する体制（時間確保も含めて）は必要だと感じる。</p>

IV. 社会貢献・地域貢献・国際交流



学校評価	外部評価
<p><現状>社会貢献、地域貢献については以下の通り毎年行っている。85%が肯定評価ではあるが、「やや不適切」「わからない」の回答もあった。学生ボランティアについて、80%が肯定意見であった。実績としては「京都ライトハウスまつり 2023」に学生ボランティア2名が参加した。また、5月の看護の日の取り組みとして地域体育館に出向いての血圧測定、献血センター訪問を通し校内での啓発活動を行った。その他、救護班等の依頼はあったが協力に至らなかった。</p> <p><総括>「やや不適切」「わからない」の回答理由は記載されておらず、改善点の評価はできないが、今後も引き続き教育資源や施設を利用した地域貢献に努めたい。また、学校が行っている貢献についても全職員が他人事ではなく自分事として認知できるよう協力体制を強化していきたい。</p> <p>「不適切」「わからない」の回答の中にはボランティア募集の少なさを理由としていた。募集はあるものの、学生の参加者数の少なさも課題である。</p> <p><次年度の課題と方略>引き続き、ボランティア活動に積極的に参加していきたい。</p>	<p>肯定評価が80%を超えているが、「やや不適切」・「不適切」の評価が一定数存在することが気になる。ボランティア精神を育み、社会貢献、地域貢献していく態度を育てることは素晴らしいことである。</p> <p>ボランティア活動で「不適切」との評価が増加しているものの、昨年比で肯定評価は増えており、学校としては、社会貢献、地域貢献、ボランティア活動を積極的に実施されていると思います。</p> <p>タイトなスケジュールにも関わらず、学生ボランティアに参加しており高い肯定評価に繋がっている。助産学科の学生が、中高の性教育講座を担当していることは生徒も医療知識が豊富で安心でき、学生自身も保健指導の向上につながる機会でありとても良い活動であると考えている。教員も多様な講師や委員等活動の実績が理解できた。</p> <p>社会貢献、地域貢献については、参加しないと実感できない経験や主催側の思いなどがあり、方法は色々あるが強</p>

	<p>制できない部分で「不適切」や「わからない」の回答に繋がる側面が大きいのではないか。1年を通して何かに参加することで獲得できる経験値と「わからない」評価は減るのではないか。施設ボランティア活動は個人的に有効だと感じている。</p>
--	---

1. 社会貢献

【洛東高等学校実習受け入れ】

第1回目 対象：2年生 18名 日時：令和5年6月13日（火）14:05～15:30

内容：姿勢と体位変換 担当：山田・平沼・竹中

第2回目 対象：2年生 18名 日時：10月17日（火）14:00～15:30

内容：移送について 担当：大桐、瀧見、山田

第1回目 対象：3年生 22名 日時：6月15日（水）14:00～15:30

内容：バイタルサイン（血圧測定） シミュレータを使つての観察

担当：大桐、石田、西雄、山田

第2回目 対象：3年生 22名 日時：10月26日（木）14:00～15:30

内容：沐浴 担当：澤田、石田

【東稜高等学校実習受け入れ】

第1回目 対象：3年生 30名 日時：5月16日（火）10:30～12:30

内容：講義＜人を支える仕事＞ 演習＜シミュレータを使つての観察、赤ちゃんの世話＞

講義担当：秋山 演習担当：北西、松井、瀧見、橋戸 校内見学：秋山、橋戸

【京都市委託事業】

潜在看護力再チャレンジ講座 2月14日～15日 14名参加

講義担当：秋山 演習担当：野村、北西、堀内、山田、平沼、竹中、片瀬

【講師派遣】

- ・日本シミュレーションラーニング学会イブニングセミナー講師 北西富恵
『教員中心からが学習者主体となる学び～探求型学習（IBL）を用いた臨床判断能力の育成～』
- ・滋賀県看護協会 看護師等養成所教員および訪問看護ステーション管理者・指導者 合同研修会
「新卒・新人訪問看護師を指導・育成する脳力の向上 Z世代の学生の特徴と新カリキュラムについて学び、指導につなげる」 北西富恵
- ・日本診療放射線技師会 マネジメント研修 コーチング・アサーション 北西富恵
- ・京都府看護協会 実習指導者講習会 母性看護学講義 橋戸好美
- ・京都府看護協会 実習指導者講習会 老年看護学講義・演習 赤尾景子
- ・むかいじま病院 倫理綱領について 倫理カンファレンス 秋山寛子

【分野別模擬授業（看護専門学校）】

4月 28日 京都西山高等学校 橋戸

5月 26日 京都府立八幡高等学校北キャンパス 北西

6月 6日 京都両洋高等学校 澤田

6月 9日 京都府立八幡高等学校南キャンパス 橋戸

7月 19日 京都精華学園高等学校 講義秋山 演習澤田

11月14日 京都府立洛水高等学校 橋戸

11月15日 京都府立木津高等学校 北西

11月20日 京都府立すばる高等学校 赤尾

12月 8日 京都府立洛東高等学校 秋山

【学会/職能関係】

日本看護シミュレーションラーニング学会 研修企画委員 北西富恵

日本看護シミュレーションラーニング学会 研究活動推進委員 北西富恵

京都母性衛生学会理事・副編集委員長 秋山寛子

京都府看護協会選挙管理委員 秋山寛子

京都府看護協会推薦委員 井上沙織

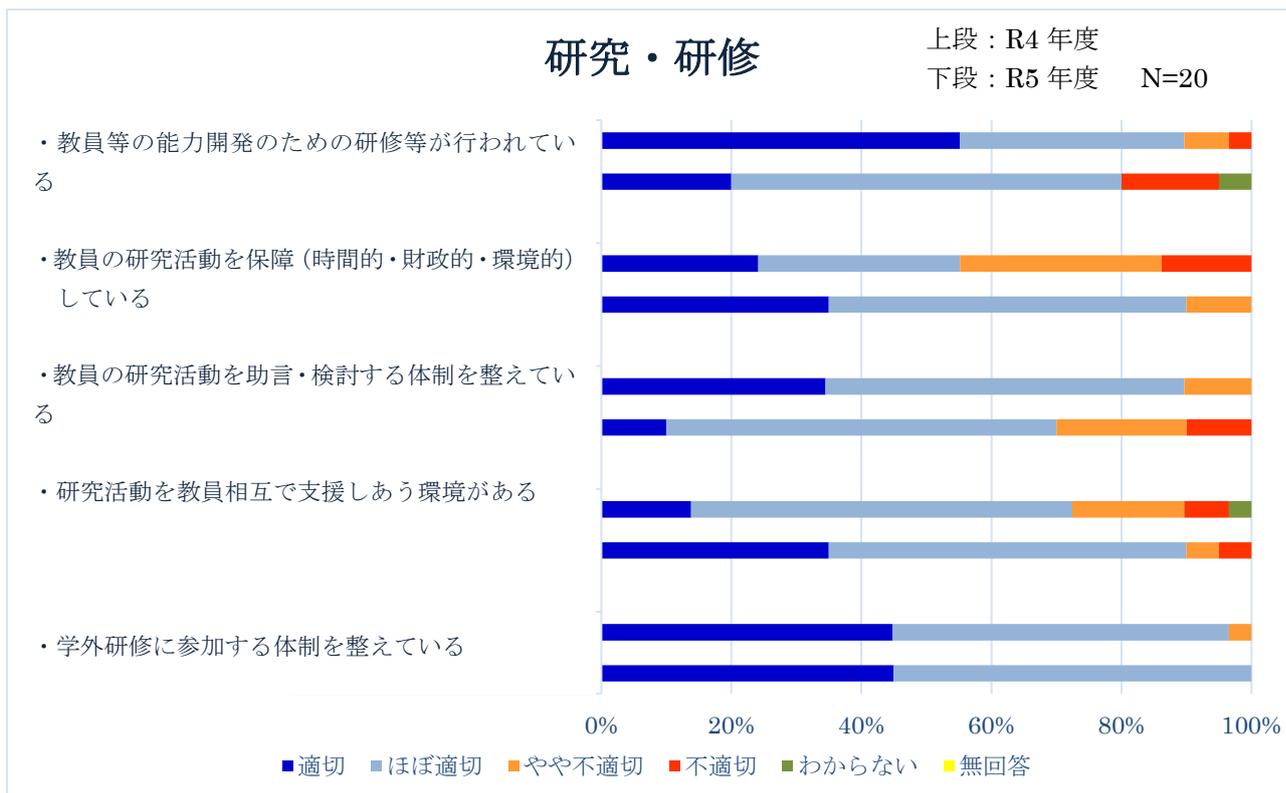
京都府看護協会総会協力委員 秋山寛子

准看護師制度特別委員会委員 秋山寛子

山科保健センター運営協議会委員 秋山寛子

京都府立洛東高等学校運営協議会委員 秋山寛子

V. 研究・研修



学校評価	外部評価
<p><現状>研修については、80%が肯定評価であった。教員の研修参加については、手厚い支援体制が整っている中、一部「不適切」「わからない」の評価があった。『研究活動について研究活動を助言・検討する体制を整えている』について20%の「不適切」評価があった。教員が参加した研修、学会は以下の通りであった</p> <p><総括>理由が記されておらず次年度に向けて「不適切」評価についての具体的な改善策が立てられない。よって、引き続き、次年度も今年度同様、教員の教育能力開発に向けて研修参加を呼びかけるとともに、自発的に参加できる組織としていきたい。教員も全体研修、個別研修に積極的に参加することと参加できなかった研修のオンデマンド配信は積極的に視聴してもらいたい。意見の多くは研究活動に費やす時間確保の困難さをあげていた。2023年度は研究計画書提出期限を延長しても半数以上が提出されず、提出された2件の研究計画については、助言を行ったが、研究活動を実施することへの教員間の温度差があり研究発表を中止せざるを得なかった。</p> <p><次年度の課題と方略>次年度は、カリキュラム評価等ができる研究や学生指導に活用できる題材を用いて、研究ができるよう支援していきたい。また、教員一人ひとりが研究テーマをもち、2～3年の長期計画で取り組める仕組みを構築していく。</p>	<p>日々の研究と修養は、教育者としては欠かせないものである。その環境の保障も大切ではあるが、教員個人の意識があつてこそそのものと感じる。学生の見本となる態度や姿勢が、相乗効果的なものになると感じる。</p> <p>教員の研究活動の大幅な改善が見られ、働き方改革による時間制約がある中での支援体制が素晴らしいと思います。今後も教員の資質向上に向けた取組をお願いします。</p> <p>タイトなスケジュールにも関わらず、各種学会参加、長期研修派遣など自己研鑽されている状況が理解できた。</p> <p>研究・研修については、教員自体がこれらの必要性を見出す必要がある。その上で自発的参加に繋がるのだと思う。研究活動に費やす時間確保は組織体制として取り組まなければ難しいと感じる。</p>

【学校内】

<シンポジウム>

- ① 12月25日 テーマ：ディプロマポリシーを目指した新カリキュラムの評価と次年度の課題
看護学科7領域および助産学科が発表した。

<研修会>

- ① 6月24日 テーマ：「学生も教員も育つ臨地実習指導のありようについて」講師：医療法人鴻池会
秋津鴻池病院 看護部長 野村佳香氏 本校教員17名 臨地実習指導者約47名
- ② 9月27日 テーマ：「指導困難な学生の教育」講師：茨城大学教育学部 新井英靖教授 日本看護学校協議会 近畿ブロック オンライン・オンデマンド配信 教員10名
- ③ 2月28日 テーマ：「なりたい自分を求めて 人生を成功させよう」講師：医療法人鴻池会 秋津鴻池病院 看護部長 野村佳香氏 学生約100名 教職員20名 卒業講演
- ④ 3月12日 テーマ：「看護師等養成所におけるハラスメント防止にむけて—教職員と学生の相互理解に向けて—」講師：蒔田 覚 氏（蒔田法律事務所）日本看護学校協議会オンライン・オンデマンド配信 教職員10名

<カムバックスクール>

- ① 8月3日 テーマ：「看護師を続けられた理由」講師：五條 守先生 京都府立洛南病院

【学校外】

<研修>

- ① 8月18日 学研ナーシングセミナー 看護師国家試験対策セミナー（オンライン）
講師：杉本由香氏 赤尾景子
- ② 2月4日 日本母体救命システム普及協議会 J-CIMELS 母体急変時の初期対応
講師：橋井康二氏 他 ハシイ産婦人科 井本寛美、井上沙織
- ③ 12月3日 誕生と死を暮らしの中に実行委員会 誕生と死を暮らしの中に
講師：日本看護取り士会会長 柴田久美子氏、みき助産院院長 新宮美紀氏
京都府立医科大学（オンライン）井上沙織、井本寛美、守屋嘉奈子、伊庭涼香、橋戸好美
- ④ 11月17日 京都府看護協会 地域で暮らす高齢者を支える看護職連携の実際
綾部市立病院 認知症看護認定看護師 西岡さおり氏他 中嶋淳子
- ⑤ 10月13日 京都府看護協会 予測不能な時代を生き抜くレジリエンス
講師：オフィスナースナレッジ ウェルビーイング心理教育ナビゲーター江口智子氏
山田佳代子、澤田恵里
- ⑥ 8月21日から9月3日 京都府看護協会 精神疾患を持つ患者・家族のエンパワーメントを高める支援
講師：京都大学附属病院 須賀原教子氏 山田佳代子
- ⑦ 9月13日 京都府看護協会 実践の中にある看護倫理～倫理的問題に気づき、考えよう講師：京都市立病院看護部管理室 看護師長 松村優子氏 山田佳代子
- ⑧ 10月5日 京都府看護協会 ケーススタディから学ぶフィジカルアセスメントと臨床推論
講師：水戸済生会総合病院/株式会社ラプタープロジェクト 青柳智和氏
北西富恵
- ⑨ 11月1日 京都府看護協会 基礎から学ぶ母乳育児
講師：京都医療センター助産師 田仲有季子氏 西雄浩子

<学会>

- ① 8月3日、4日 日本看護学校協議会学会 学会長：鈴木邦彦、他 水戸市（オンライン）橋戸好美
- ② 9月17日 日本助産診断実践学会 第6回日本助産診断実践学会学術集会
学術集会長：稲井洋子 他 埼玉医科大学（オンライン）井上沙織、井本寛美、守屋嘉奈子、伊庭涼香
- ③ 7月8日 京都母性衛生学会 京都母性衛生学会学術集会 京都府立医科大学対面
井本寛美、守屋嘉奈子、伊庭涼香、橋戸好美、秋山寛子
- ④ 9月9日～10日 日本家族看護学会 日本家族看護学会第30回学術集会
学術集会長：山崎 あけみ（大阪大学教授）
大阪大学吹田キャンパス コンベンションセンター 白木紀代美 秋山寛子
- ⑤ 12月9日～10日 日本看護科学学会 日本看護科学学会第43回学術集会

学術集会会長：田中 マキ子（山口県立大学）

下関市生涯学習プラザ

秋山寛子

【長期研修】

- ① 4月29日～2月12日 日本看護学校協議会 中堅看護教員スキルアップ研修会
講師：水方智子氏、水本徳明氏、白石邦明氏他 オンラインと対面併用
大桐史江、北西富恵、澤田恵里
- ② 5月10日～11月8日 京都府看護協会 京都府専任教員養成講習会
講師：豊田久美子会長他 オンラインと対面併用 堀内美希